

博物館通信

2018年2月から5月までに行った博物館活動や出来事の中からいくつかをご紹介します。

- 2月1日(木)～3月24日(土)
2017年度西南学院大学博物館企画展「西南学院とW. M. ヴォーリス」を開催しました。
- 2月10日(土)
せいなんおでかけワークショップ in 北有馬図書館「絵のナゾを読む!—絵のナゾをといて、オリジナル缶バッジをつくらう—」を実施しました。
- 2月23日(金)～6月27日(水)
國學院大學博物館相互貸借特集展XIX「発掘された縄文時代早期の人骨—居家以岩陰遺跡の発掘調査—」の展示を開始しました。
- 3月12日(土)～6月中旬
南島原市・西南学院大学博物館 相互貸借特集展示XI「港町・口之津の歴史とくらし」の展示を開始しました。
- 4月2日(月)～6月30日(土)
2017年度西南学院大学博物館企画展 研究室訪問シリーズI 山田順研究室「地下墓地 カタコンベの世界」を開催しました。

行事予定

2018(平成30)年6月～8月

【特別展／企画展】

7月17日(火)～10月20日(土)
2018年度企画展 I
「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちと拡がり—」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

【ワークショップ】

6月1日(金)～6月30日(土)
「おたからをさがせ!クイズラリー」
[場所] 西南学院大学博物館
※申し込み不要。

7月28日(土) 14:00～16:00
「オリジナルフォトフレームをつくらう!」
[会場] 西南学院大学博物館
※要申し込み。詳細は博物館ホームページをご覧ください。

【夏季休館】

8月10日(金)～8月16日(木)
行事予定は日程、内容等を変更する場合がございます。

西南学院大学博物館

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇 [8/10～8/16]
キリスト降誕祭 [12/25]、年末・年始 [12/28-1/5]

入館料 / 無料

seinamuseum @seinan_museum @seinan_museum

来館者掲示板

【来館者の言葉】

あたたかみのあるとても素晴らしい建物でした。
階段が気に入りました。(2018年3月)

「カタコンベの世界」よかったです。山田先生の野帳の一部や資料など
見ることができて、研究内容が詳細に見られてよかったです。また機会が
あったら、ぜひ!! (2018年4月)

山田先生の貴重な経験のつまった展示を拝見しました。
素晴らしい! (2018年4月)

ヴォーリス展では、当館の建物の魅力を再発見していただき
ました。また、研究室訪問シリーズ「地下墓地カタコンベの世界」
には、学生や卒業生の方が多く来館されています。さて、7月17
日からは、企画展「東方キリスト教との出会い—祈りのかたちと拡がり—」
が開催されます。スタッフ一同、心よりご来館をお待ちしております。
学芸調査員 宮川 由衣

編集後記

2018年度第1回目の博物館ニュースです。新しい企画も続々と始
まっております!今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

学芸研究員 野藤 妙

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車...約17分
- 博多駅 → 西新駅下車...約12分
- 天神 → 西新駅下車...約8分
- ※地下鉄西新駅(③番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
- 天神 → 修猷館前...約20分
- ※修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 34 2018.6

西南学院大学

所蔵品紹介	【キリスト教文化】「聖母への奉納画」
聖書植物園紹介	エトログ
企画展紹介	地下墓地 カタコンベの世界 東方キリスト教との出会い —祈りのかたちとその拡がり—
博物館通信	企画展「西南学院とW. M. ヴォーリス」ほか



所蔵品紹介 特集

【キリスト教文化】

聖母への奉納画

Ex-voto to Virgin
メキシコ / 20～21世紀 / 金属製、着色

メキシコでは、感謝のしるしとしてブリキの板に描かれた絵をキリスト教会に奉納するという風習があります。現地ではこれを奉納画(Retablo)と呼び、イエス・キリスト、聖母マリア、聖人とともに、彼らの執り成しによって叶えられた出来事、そして感謝の言葉を描きこみます。

メキシコにおけるキリスト教の歴史は、16世紀前半のスペイン人の「新大陸」進出をきっかけに始まります。1521年、コルテス軍によって征服されたアステカ帝国はヌエバ・エスパーニャ(新スペイン)と名づけられました。2年後にはフランシスコ会が同地で最初の組織的な布教活動を開始し、ドミニコ会やアウグスティヌス会、イエズス会もそれに続きます。その後、キリスト教は土着の信仰と融合しつつ、その土地に根付いていきました。

奉納画の風習は、19世紀半ば頃に始まり、20世紀初頭にメキシコ中央西部地域に特に広がりを見せました。使い古しのブリキ板を30×20センチにカットし、ペンキで描いたものが一般的です。

その内容は、病気の治癒、豊稔の収穫、トラブルの解決などの感謝を表すもので、奉納者のほとんどは跪き、両手を合わせる姿で描かれています。メキシコでは、「グアダルupesの聖母」に代表されるように、顕現した聖母マリアやイエス・キリスト、聖人、あるいは、その地の教会で祀られている聖母像やイエス・キリスト像が奇跡を起こしたという伝説が多く生み出され、各地域で信仰されています。奉納画の多くは、こうした各地域で崇敬の対象となっている像に対して捧げられています。



本奉納画は、ある母親が、娘に言い寄ってきた骸骨を聖母とほうきのおかげで退散させることができたことを感謝する旨が書かれています。その意味するところは、死が迫っていた娘が回復したことを感謝するものであると推測されます。感謝を捧げられている聖母は、メキシコで最も篤い信仰を集める「グアダルupesの聖母」に類似しています。グアダルupesの聖母は、伝説によると1531年に現在のメキシコシティ北方テペヤクの丘で先住民ファン・ディエゴの前に褐色の肌の聖母が姿を現し、病を治したという奇跡で知られています。テペヤクの丘はかつてアステカの女神トナンツインの地であったことから、グアダルupesの聖母は土着の信仰とキリスト教が融合した典型的な例の一つだと解されています。

娘に言い寄る骸骨は、メキシコの祝祭である「死者の日」に登場するカラカ(calaca)と呼ばれる骸骨です。毎年11月1日と翌2日に祝われる「死者の日」はメキシコの土着の死者追悼儀礼と豊稔祭、そしてキリスト教の諸聖人の日(万聖節)が融合したものと考えられています。メキシコでは、「死」を陽気なあるいは滑稽な骸骨の姿で表すことは珍しくなく、本奉納画に描かれている骸骨もまた、楽器を抱え、踊っているかのような動作をしています。

学芸調査員 西山 萌

聖書植物園の「エトログ」

聖書植物園 HP <http://www.seinan-gu.ac.jp/shokubutsu/>

【聖句】「初日には立派な木の実、なつめやしの葉、茂った木の枝、川柳の枝を取って来て、あなたたちの神、主の御前に七日の間、喜び祝う。」(レビ記23:40)

エトログは、ユダヤ教の三大祝祭(過越祭、七週祭、仮庵祭)のひとつ、仮庵祭で使用される4つの植物のなかの1つです。レビ記には、仮庵祭について以下のように記されています。

「あなたがたは7日の間、仮庵に住まなければならない……これはわたしがイスラエルでの人々をエジプトの国から導き出したとき、かれらを仮庵に住ませたことを、あなたがたの子孫に知らせるためである。私はあなたがたの神、主である。」(レビ記23:42-43)

レビ記が記している通りに、祭の間イスラエルの人々は庭やベランダに仮庵(現代では主にテント)を造り、7日間その中で食事をしたり、家族で団らんをしたりして過ごすことで、先祖たちの荒れ野での40年もの天幕生活を想起します。また、シナゴークでは人々が祈りを唱えながら、立派な木の実(エトログ)、なつめやしの葉、茂った木の枝(ミルトス)、川柳の枝を束にして持ち、朗読台の周りを巡ります。祭の期間中、エトログが乾燥したり傷ついたりしないように、エトログボックスの中に入れて保存します。このボックスは、伝統的に長方形や果物の形をしている箱に入れていましたが、現在は様々なデザインがあり、レビ記23章40節が記されているものもあります。エトログボックスは、現在常設展に展示されておりますので、こちらも併せてご覧ください。



エトログの実



エトログ・ボックス

【和名】エトログ
【英語名】etrog citron
【学名】Citrus medica
【所在】2号館南

学芸調査員 鬼東 芽依

企画展紹介 現在開催中

西南学院大学博物館研究室訪問シリーズⅠ 山田順研究室

地下墓地 カタコンベの世界

会期/2018年
4月2日(月)~6月30日(土)

会場/西南学院大学博物館特別展示室・2階講堂

主催/山田順研究室(西南学院大学国際文化学部国際文化学科)
南山大学教皇庁認可神学部図書館

新企画「研究室訪問シリーズ」は、西南学院大学の先生方が研究の合間にコツコツと集めてこられた貴重な「個人コレクション」を博物館スタッフと協力して一挙公開するものです。第1回目は国際文化学部の山田順先生にご協力を賜り、イタリア半島を中心に分布するカタコンベ(地下共同墓地)をテーマとした展示をしております。本展覧会では、カタコンベの再発見に貢献した考古学者たちの挑戦とその成果に注目しながら、初期キリスト教考古学の成立と発展、そして最新の研究成果を紹介いたします。



企画展紹介 次回開催

2018年度 西南学院大学博物館企画展Ⅰ

東方キリスト教との出会い — 祈りのかたちとその拡がり —

開催期間

会期/2018年

7月17日(火)~10月20日(土)

会場/西南学院大学博物館特別展示室、2階講堂

主催/西南学院大学博物館

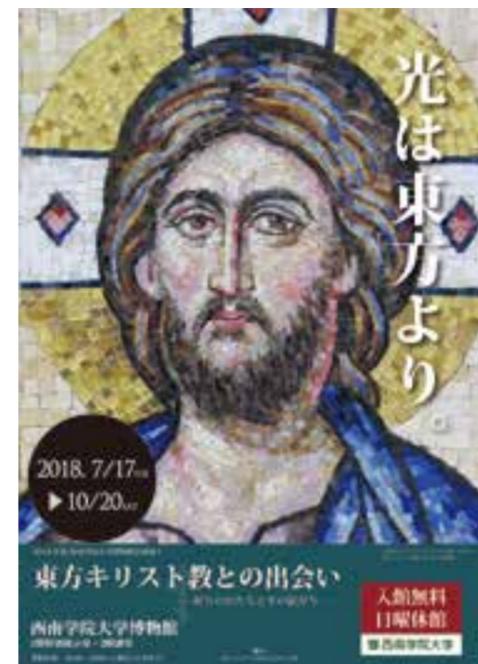
開催概要

キリスト教には東方キリスト教(東方正教会、東方諸教会)と西方キリスト教(カトリック、プロテスタント)の2つの伝統があります。このうち、ビザンティンの伝統を担うのが東方キリスト教です。その起源はイエス・キリストと出会った使徒たちの経験に遡り、教父たちの時代を経て、ギリシアやロシアを中心に息づいています。

東方キリスト教の聖堂には、イエス・キリストやマリアを描いたイコンが置かれています。聖なる写しとも言うべきイコンの美は、東方キリスト教の祈りのかたちを示しています。

日本においては幕末から明治期にかけて、亜使徒聖ニコライの働きにより、日本正教会の礎が築かれました。その後、ロシア革命や二度に渡る世界大戦により、日本正教会は苦難の道を歩みますが、聖ニコライが伝えた正教の教えは現代においても、日本全国で守り続けられています。

本展覧会では、東方キリスト教の祈りのかたちを紹介し、その歴史的拡がりを辿ります。



展示構成

第1章 東方キリスト教の世界—光は東方より

第2章 イコン—祈りのかたち

- 1 節 ウラジミルの聖母—聖なる写し
- 2 節 イコンと素材—物質の聖化
- 3 節 19世紀ロシア・イコンと山下り

第3章 祈りの拡がり—日本と正教会

- 1 節 聖ニコライによる布教活動
- 2 節 日本ハリストス正教会の祈り

関連イベント 参加無料

企画展ガイドツアー

日時/8月25日(土)・9月22日(土)

- ① 11:30~12:00
- ② 15:30~16:00

会場/西南学院大学博物館

申込み不要

企画展関連公開シンポジウム

【基調講演】

講師/鐸木 道剛氏(東北学院大学人文学部総合人文学科教授)

【関連発表】

講師/片山 寛氏(西南学院大学神学部神学科教授)

松原 知生氏(西南学院大学国際文化学部国際文化学科教授)

森田 團氏(西南学院大学国際文化学部国際文化学科教授)

日時/10月6日(土) 13:00~16:10

会場/西南学院大学博物館2階講堂

申込み不要

せいなんこどもワークショップ

オリジナルフォトフレームをつくろう!

日時/7月28日(土) 対象/小学生
14:00~16:00 定員/20名

会場/西南学院大学博物館 参加料/無料
2階講堂 申込締切/7月21日(土)

ワークショップ申し込み方法

「参加者氏名(ふりがな)」「性別」「生年月日」「年齢」「小学校名・学年」「保護者氏名・続柄」「緊急連絡先電話番号」「メールアドレスまたはFAX番号」の必要事項を明記の上、メール(seinanmuseum@yahoo.co.jp)またはFAX(092-823-4786)にて、7月21日(土)までにお申し込みください。

※定員に達し次第、申し込みを締め切らせていただきます。
※個人情報、保険加入手続き、統計、博物館・ワークショップに関するご連絡以外に使用いたしません。
※ワークショップ当日に写真撮影を行います。写真は博物館ホームページ、SNS、刊行物等で公開することがあります。